



寺社カメワリ坂窯跡



寺家クロバタケ3号窯跡



法住寺3号窯跡



西方寺1号窯跡

史跡

9. 珠洲陶器窯跡

す ず と う き か ま あ と

■指定年月日 平成20年7月28日(2008)

■指定面積 30,649.35㎡(市内29,124.89㎡)

■所在地 12箇所(市内10箇所)

■所有者 個人・珠洲市・社会福祉法人長寿会

珠洲陶器窯跡は、日本海に突出する能登半島の先端部に位置する珠洲市と鳳珠郡能登町に所在する。

12世紀中葉(平安時代末)から15世紀末(室町時代中期)にかけて中世陶器の珠洲焼を生産した窯業生産遺跡群である。

珠洲市では、上戸町に寺社カメワリ坂窯・清水窯、宝立町に鳥屋尾窯・西方寺窯、郷カマノマエ窯・法住寺窯・大畠窯、三崎町に寺家クロバタケ窯・大屋ヒヤマ窯、馬縹町に馬縹カメガダン窯の10カ所がある。能登町では、行延窯、河ヶ谷ミソメ窯の2カ所がある。

中世において珠洲郡(珠洲市と能登町の一部)の大部分は若山荘と呼ばれる能登地域最大の荘園で

あった。康治2年(1143)に、源季兼が所領を皇太后宮藤原聖子(皇嘉門院)へ寄進したものである。

珠洲陶器窯跡は、この荘域(四郷一浦:直郷、飯田郷、若山郷、西海浦(以上珠洲市)、木郎郷(能登町))にある。

窯形式は、発掘調査した法住寺窯、寺家クロバタケ窯、大畠窯では、なだらかな丘陵斜面に築かれた半地下式、地上式の窖窯である。また、ほぼ窯体が現存している西方寺一号窯は、岩盤をくりぬいた地下式窖窯で、平面形は全長13m以上で幅は1.2~3m、天井高1.0~1.1m、傾斜28度を測り、断面は蒲鉾状を呈するものである。